

単元		年組番
六年 筆写の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう「笑うから楽しい」		
氏名		3問

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

私たちの体の動きと心の動きは、密接に関係しています。例えば、私たちは悲しいときに泣く、楽しいときに笑うというように、心の動きが体の動きに表れます。しかし、それと同時に、体を動かすことで、心を動かすこともできるのです。泣くと悲しくなったり、笑うと楽しくなったりということなのです。

私たちの脳は、体の動きを読み取って、それに合わせた心の動きを呼び起こします。ある実験で、参加者に口を横に開いて、歯が見えるようにしてもらいました。このときの顔の動きは、笑っているときの表情と、とてもよく似ています。実験の参加者は、自分たちがえがおになっていることに気づいていませんでしたが、自然とゆかいな気持ちになっていました。このとき、脳は表情から「今、自分は笑っている」と判断し、笑っているときの心の動き、つまり、楽しい気持ちを引き起こしていたのです。

表情によって呼吸が変化し、脳内の血液温度が変わることも、私たちの心の動き動きを決める大切な要素の一つです。人は、脳を流れる血液の温度が低ければ、こころよく感じる事が分かっています。笑ったときの表情は、笑っていないときと比べて、鼻の入り口が広くなるので、多くの空気を取りこむことができます。えがおになって、たくさん空気を吸いこむと、脳を流れる血液が冷やされて、楽しい気持ちが生じるのです。

私たちの体と心は、それぞれ別々のものではなく、深く関わり合っています。楽しいという心の動きが、えがおという体の働きに表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかけるのです。何かいやなことがあったときは、このことを思い出して、鏡の前でにっこり笑顔を作ってみるのもよいかもかもしれません。

一 筆者の考えは、第四段落に書かれています。その考えのもとにしている事例を二つ挙げましょう。

二 この文章に対するあなたの考えを自分の立場を明確にし、体験と結んで書きましょう。



チャレンジシート きほん

学習日 年 月 日

単元	年組番	6問
六年 自分の感じたことを朗読で表現しよう「やまなし」	氏名	

国語の六年教科書105ページから106ページを読んで、次の問題に答えましょう。

- 一 魚が行ったり来たりする様子がわかるところを書きぬきましょう。
- ・上の方へ上るとき

[] []

二 水の中の様子が急に変わったことがわかる段落は、どの段落でしょう。段落の初めの言葉の五字を書きぬきましょう。

三 天井からいきなり飛びこんできたものの様子はどんな様子のものでしたか。 [] にあてはまるものを書きましょう。

青光りのまるでぎらぎらする	[]	のようなもの
青いものの先が	[]	のように黒くどがっている

四 「二ひきはまるで声も出さず、居すくまってしまいました。」とは、どんな様子でしょう。あてはまるもの()Oをつけましょう。

- () 水の中のきれいな様子にうっとりしている。
- () おそろしさのあまり、身動きできなくなる。
- () 何が何だかわからなくて、びっくりしている。



単元		年	組	番
六年 自分の感じたことを朗読で表現しよう「やまなし」		氏名		
3問				

文章を読んで、答えましょう。

一 天井から落ちてきたものは何でしょう。

--

二 天井から落ちてきたものの様子がわかるところを書きぬきましょう。

--

三 なぜ、宮沢賢治は、「やまなし」という題名をつけたのでしょうか。「五月」と「十二月」を比べて感じたこと、わかったことをいれてあなたの考えを書きましょう。

--

そのとき、トブン。
 黒い丸い大きなものが、天井から落ちてずうっとしずんで、また上へ上っていききました。さらにきらりと黄金のぶちが光りました。
 「かわせみだ。」
 子どもらのかには、首をすくめて言いました。
 お父さんのかには、遠眼鏡のような両方の目をあらんかぎりのぼして、よくよく見てから言いました。
 「そうじゃない。あれはやまなしだ。流れていくぞ。ついていってみよう。ああ、いいにおいだな。」
 なるほど、そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいいにおいでいっぱいでした。
 三びきは、ぼかぼか流れていくやまなしの後を追いました。
 その横歩きと、底の黒い三つのかげ法師が、合わせて六つ、おどるようにして、やまなしの円いかげを追いました。
 まもなく、水はサラサラ鳴り、天井の波はいよいよ青いほのおを上げ、やまなしは横になって木の枝に引っかかって止まり、その上には、月光のじがもかもか集まりました。
 「どうだ。やっぱりやまなしだよ。よく熟している。いいにおいだろう。」
 「おいしそうだね、お父さん。」
 「待って待って。もう二日はかり待つとね、こいつは下へしずんでくる。それから、ひとりでおいしいお酒ができるから。さあ、もう帰ってねよう。おいで。」
 親子のかには三びき、自分らのあなに帰っていきます。
 波は、いよいよ青白いほのおをゆらゆらと上げました。それはまた、金剛石の粉をはいているようでした。
 私の幻灯は、これでおしまいであります。

単 元	氏 名		年 組 番
六年「漢字を正しく使えるように」			
氏 名			年 組 番
氏 名			年 組 番

どの漢字を使うか迷ったり、誤った漢字を使ってしまったりしやすいものには、「同じ読み方をする漢字」があります。次のように考えてみると、正しい字が分かることがあります。

(訓読みの場合)

- ① その言葉を、漢語で言い表してみる。
- ② 穀物を倉庫にうつす。(移す・写す) ↓ (移動する) ↓ 移す。
- ② 作業が予定どおり進むようつとめる。(努める・務める・勤める) ↓ (努力する) ↓ 努める。

② 言葉を、別の訓読みで言い表してみる。

- ① 部屋のまどをあける。↓ 開(ひらく)。↓ 開ける。
- ② 温かいスープがさめる。↓ 冷たくなる。↓ 冷める。

③ その漢字を使った熟語を思いつかべてみる。

- ① 延長戦の末、やぶれる。(敗れる・破れる) ↓ 敗北 ↓ 敗れる。
- ② 音楽家が意欲的に新しい曲をつくる。(作る・造る) ↓ 作曲 ↓ 作る。

(音読みの場合)

その漢字の訓読みを考えてみる。

- ① ショウ人数で学習する。(小・少) ↓ 少ない人数 ↓ 少(人数)
- ② 諸条件を考えて、仮セツを立てる。(説・設) ↓ 仮に立てた説明(考え)

↓ 仮説

音読み・訓読みを考えたり、同じ漢字を使うほかの言葉をするときは、その漢字の「意味」を考えることもあります。自分の書こうとしている言葉の意味と、使おうとする漢字の意味を、いつも考えるようにしましょう。



チャレンジシート② きほん

学習日 年 月 日

単元	六年「漢字を正しく使えるように」
氏名	年 組 番
13問	

一 漢字の使い方が正しいほうに、○を付けましょう。
また、別の言葉で言い表して（ ）に書き、漢字の意味を考えましょう。



・墓前に花を供え、まわりをそうじする。

() () 回り
(○) () 周り

【例】まわり→【周囲】

・早起きにつとめる。

() () 勤める
() (○) () 努める
() () 務める

つとめる→【 】



・運動場で転んで、ズボンがやぶれる。

() () 敗れる
() () 破れる

やぶれる→【 】

・駅前に、大きなビルがたくさんたつ。

() () 立つ
() () 建つ

たつ→【 】

・試合再カイのアナウンスに、観衆は喜んだ。

() () 再会
() () 再開

再カイ→【 】

二 それぞれの文に合う漢字を選んで、□に書きましょう。

① 聖火台がテレビに
家族そろって写真に

映る 写る 移る

② 夜が
グラスを

開ける 空ける 明ける

③ 障子が

敗れる 破れる

④ 最ショウ努力で最大の効果を上げる。

最

小 少

単 元	年 組 番
六年「漢字を正しく使えるように」	氏 名
9問	

一 次の(1)から(3)までの文の「・・・」で示した部分と同じ漢字を用いるものを、
あとのアからエまでのの中からそれぞれ一つ選んで、その記号に○をしましょう。

- | | | |
|-------------------------|----------------------|----------------------|
| (1) ちゆう「しよく」は
やき魚です。 | (2) バスが
「てい」しやした。 | (3) 会社を
「せつ」りつする。 |
| ア 「しよく」ぎよう | ア 「てい」がくねん | ア き「せつ」ふう |
| イ 「しよく」りようひん | イ か「てい」か | イ しょう「せつ」か |
| ウ 「しよく」りん | ウ かい「てい」トンネル | ウ けん「せつ」がいしや |
| エ ちやく「しよく」りよう | エ 「てい」しいち | エ しん「せつ」しん |

二 正しい漢字を使って文を書き直しましょう。

① 強いセイ神力じんりきで山に登る。

② 山おくのセイ流りゅうを目指す。

③ どんな時も冷セイせいに話す。

④ まちがった字をななおす。

⑤ 道路のはばをははかる。

⑥ あの人はやさしくて、ああたたかかい人だ。

単 元		氏 名	年 組 番	問
五年「生活の中の敬語」				

「敬語」とは

- (例) (1) わたしの名前は、田中です。
 (2) 山本先生が、いらっしゃった。
 (3) 大切なお客様を、お見送りする。

(1)から(3)の——部のように、わたしたちは、聞き手や会話の中に出てくる人などに対して敬意を表すために、必要にに応じて丁寧な言葉を使います、これを敬語といいます。

① ていねい語

あまり親しくない人や大勢の人に対して話したり書いたりするときに使います。相手（聞き手や読み手む）に対する敬意を表します。

「です」「ます」「ございます」などのことばを使います。

② 尊敬語

相手や話題になっている人を敬う気持ちを表すときに使います。

- ① 「いらっしゃる」「おっしゃる」などの特別な言葉を使った言い方
- ② 「おはなしになる」などのような「お(ご)・・になる」という言い方
- ③ 「・・れる(られる)」という言い方
- ④ 「ご卒業」などのように物事を表す言葉に「お」や「ご」を付けた言い方

③ けんじょう語

自分や身内の動作をけんそんな言い方によって、その動作を受け取る人への敬意を表すときに使います。

- ① 「うかがう」「いただく」など、特別な言葉を使った言い方。
- ② 「お見送りする」などのような「お(ご)・・する」という言い方

敬語は、私たちが、相手や話題になっている人をどう思っているのかという気持ちや、その場をどうとらえているかという見方も表します。



生活のちょっとした場面でも、相手と場を意識して、適切な敬語が使えるようになりましょう。

単 元	年 組 番	17問
五年「生活の中の敬語」	氏 名	

1 例を参考にして、敬語を から選び、書きましよう。(同じ番号を二回使ってもかまいません。)

【言葉】

【ていねい語】

【尊敬語】

【けんじょう語】

- | | | | | | | | | | |
|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (例) | 言う | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 |
| (1) | 食べる | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 |
| (2) | 見る | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 |
| (3) | 行く | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 |
| (4) | もらう | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 |
| (5) | くれる | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 | 〓 |

- | | | | | | | | |
|---|----------------------|---|--------------------------|---|--|---|---------------------------|
| ① | くださる | ② | 食べます | ③ | いらっしゃる | ④ | 見ます |
| ⑤ | もらいます | ⑥ | くれます | ⑦ | いただく | ⑧ | 行きます |
| ⑨ | 参る <small>まい</small> | ⑩ | ご覧 <small>らん</small> になる | ⑪ | 召 <small>めい</small> し上 <small>あ</small> がる | ⑫ | 拝見 <small>はいけん</small> する |

2 次の文の.....線部の敬語は使い方が間違っています。正しい敬語を)に書きましよう。

- (1) わたしは、初めて、あなたにお会いになるとおもいます。〓
- (2) お客様も、昼食をいただくとのことでした。〓
- (3) 母が、あなたにおっしゃりたいことがあります。〓
- (4) 校長先生は、写真を拝見しましたか。〓

単 元		氏 名	年 組 番	4 問
五年「生活の中の敬語」				

○ 【 】 のような敬語を使うのがふさわしい場面にあった、適切な表現に文章を書き換えましよう。

(1) 【家に来客があったとき】

「あっ。お母さんは、今出かけてて。田中さんが来たって、言っておきます。」

(2) 【電話をかけたとき】

「もしもし。同じクラスの山田だけど、ゆうきくんは。」

(3) 【もらった物のお礼を言うとき】

「この間は、りんごをくれて、ありがとうございました。おいしく食べました。」

(4) 【店で店員さんと話すとき】

「カーネーション、三本。おばあちゃんにあげるから、リボンをつけてほしいんだけど。」

単元	六年 「たのしみは」
氏名	年組番
<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: auto;"></div>	

○ 短歌の基本ルールを完成させましょう。() に当てはまる言葉を、
から選んで、記号を書きましよう。同じ記号を何度使ってもかまいません。

【短歌を作るときの基本ルール】

① 短歌は、五・()・()・()・七・() ()の() ()音からできている。

② 小さな「つ」やのばす音、「ん」も、一音と数えます。

しよっき ↓ () 音 おとうさん ↓ () 音
へんじ ↓ () 音 たのしみは ↓ () 音

- ア 三
- イ 四
- ウ 五
- エ 七
- オ 九
- カ 十七
- キ 三十一

○ 次の三つの短歌を完成させましょう。歌の意味と短歌の基本のルールをもとに、
から適切な言葉を選び、() () に記号を書きましよう。

たのしみは妻子むつまじくうちつどひ () ()
たのしみは昼寝目ざむる () ()
たのしみは朝おきいでて () ()

私が楽しみとするのは、妻や子どもたちと仲よく集まり、並んでいっしょに何かを食べるときだ。

たのしみは朝おきいでて () ()
たのしみは昼寝目ざむる () ()
たのしみは朝おきいでて () ()

私が楽しみとするのは、昼寝から目覚めると、枕元の火ばちにかけた鉄瓶の湯が「ト」で音を立ててくるはまだ。

たのしみは朝おきいでて () ()
たのしみは朝おきいでて () ()
たのしみは朝おきいでて () ()

私が楽しみとするのは、朝起きて庭に目をやると、昨日まで咲いていなかった花が、美しく咲いているのを見るときだ

- ア 昨日まで
- イ 枕べに
- ウ 最初の日
- エ 頭ならべて
- オ 二人同時に
- カ 無かりし花の

チャレンジシート② ジャンプ

学習日 年 月 日

六年 「たのしみは」	単 元	氏 名	年 組 番	7問

○ 例を参考にして、「たのしみは・・・時」の形で、短歌を作りましょう。

五音

七音

五音

(例) たのしみは けんかの後の 仲直り

七音

七音

二人同時に 笑いあう時

正木 奈々

たのしみは

時

○ 「たのしみは」だけでなく、「喜びは」「感動は」「悲しみは」などに変えて、短歌を作ってみましょう。

は、

時

は、

時

単 元		年 組 番	問
六年 登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう「カレーライス」		氏 名	

物語を読むときのポイント

○登場人物の心情をとらえよう。

- ・ それぞれの場面で、登場人物（主人公等）が、どのように感じたり考えたりしているだろうか。
- ・ 登場人物（主人公等）のどのような言動によって、気持ちの変化が引き起こされたのだろうか。
- ・ 物語のはじめと終わりでは、主人公の気持ちは、違っているだろうか。

感想をまとめるには

○視点を明確にして、感想をもつ。

- ・ 登場人物（主人公等）は、どんなことをした人かな。
- ・ 登場人物（主人公等）に、共感できるところはどこかな。

○感想の根拠となるキーワード(言葉)を見付ける。

- ・ 登場人物（主人公等）の思いが分かる言葉
- ・ 登場人物（主人公等）から学びたい生き方や考え方が分かる言葉

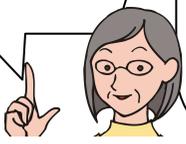
○自分の体験と比べる。

- ・ 登場人物（主人公等）と同じような体験をしたことはないかな。
 - ・ 自分に取り入れたいところは、どこかな。
 - ・ どんな言葉が心に残ったかな。
- (共通点・相違点)

「カレーライス」の作者の重松清さんは、他にもいろいろな物語を書いています。どんな作品があるか、図書館で見付けてみよう。



まとめた感想は、友達と読み合い、友達の感想について、思ったことや感じたことを伝え合おう。



単 元	年 組 番	問
六年 登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう「カレーライス」		
氏 名		

1 教科書14ページ～22ページの2行目を読んで考えましょう。

- (1) ぼくは、だれに「絶対に『ごめんなさい。』と言わない。」(14ページ2行目)と言っているのでしょうか。

- (2) その理由を書きましよう。

- (3) 「お父さんウィーク」(15ページ10行目)というのは、どんなことでしょうか。()にあてはまる言葉を書きましよう。

毎月半ばの () ほど、お母さんは仕事がいそがしくて、
 帰りが () なる。その代わりに、お父さんが夕食に合わせて
 て () () 帰ってくる。

- (4) 「それがいつもくやくして」(21ページ9行目)とあるのはどうしてでしょうか。その理由としてあてはまるものに「つ」に○をつけましよう。

- () () 黄身がくずれた目玉焼きが出てきたから。
- () () 火を使うのは危ないからと、オーブントースターと電子レンジしか使わせてくれないから。
- () () 今朝は、カレーが食べたかったから。

チャレンジシート① 学ぶ

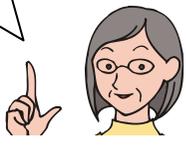
学習日 年 月 日

単 元	年 組 番	7 問
六年 町のよさを伝えるパンフレット を作ろう「ようこそ、私たちの町へ」	氏 名	

パンフレットの完成まで

- ① パンフレットを作る計画を立て、構想を練る。
- ② 取り上げる題材について取材し、必要な情報を集める。
- ③ 全体の構成とそれぞれのページの割り付けを考える。
- ④ 割り付けに従って記事を書く。
- ⑤ 推敲(すいこう)して、パンフレットを完成させる。
- ⑥ 友達と読み合って、たがいに助言する。

パンフレットとは、場所や事物について、よさなどを知らせるための小冊子のことです。パンフレットは、写真や短い文章などで構成されています。



★ ア〜ウの文は、①〜⑥のどの活動をくわしく説明したものでしょう。それぞれ、番号を書きましよう。

ア 書いた記事を見直して、よりよい表現にしたり、誤字がないかを確認したりする。

イ 実際のパンフレットを参考にして、どのようなものを作るか、おおまかな内容を考える。

ウ 取り上げる場所に行つて、インタビューをしたり、写真をとったりする。

相手や目的を考えて、効果的に伝える

★ 相手や目的を考えて、調べた情報を効果的に伝えるための活動として正しいものを選び、それぞれ「○」を付けましよう。

○ パンフレットの目的に合わせて、相手の知りたい情報は何かをよく考えて構想を練る。

○ 相手の知りたいことよりも、自分たちが知らせたいことを中心に構想を練る。

○ インタビューをするときは、複数の意見を聞いて、共通点やちがいを比べるようにする。

○ インタビューをするときは、一人にしばった方が、より正確な情報を集めることができる。

○ 図や写真を入れるよりも、くわしい記事を多くのごせて、読み手を引きつける。

○ 見出しやキャッチコピーは、文字を大きくするなどの工夫をして、読み手を引きつける。

○ 記事を書くときは、自分の考えだけを書くようにし、具体的な数値は省略する。

○ 記事を書くときや推敲するときは、場所や事物のよさを的確に表す言葉を選ぶようにする。

単 元	年 組 番	5 問
六年 町のよさを伝えるパンフレット を作ろう「ようこそ、私たちの町へ」	氏 名	

1 教科書八十二ページの記述例は、札幌の時計台のよさを伝える記事です。さっぽろこの記事をよく読んで、(1)～(5)の問いに答えましょう。

(1) この記事の中で、札幌の時計台について、書かれていないものを次のア～エから選びましょう。

- ア 時計台の外や中の様子
- イ 時計台の歴史
- ウ 時計が動く仕組み
- エ 時計台の高さや大きさ

(2) 時計台の時計は、建物が建てられた何年後に設置されましたか。

- (3) 記事の割り付けや書き方の工夫として、正しくないものを、次のア～エから選びましょう。
- ア タイトルや見出しの文字を大きくしたり、背景の色を変えたりしている。
 - イ 時計台の外や中の様子について、か条書きで分かりやすくまとめている。
 - ウ 時計台の写真や中の地図を効果的にのせている。
 - エ 豆知識コーナーで、読み手を引きつけている。

(4) 時計台についてのキャッチコピーを十四字で書き出しましょう。(句読点をふくむ。)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(5) 「美しい鐘の音は、他ではなかなか聞けません。」のように、時計台に行った経験を生かして、読み手に呼びかけている一文を書き出しましょう。

単 元		年 組 番	問
六年 筆者のものの見方をとらえ自分の考えをまとめよう 「鳥獣戯画を読む」		氏 名	

筆者のものの見方をとらえるには

筆者のものの見方をどうやってとらえるのかを次の3つのポイントで考えていこう。

- ① 何を取り上げているか。
- ② 取り上げたものの、どこに目を向けて、どのような言葉で説明や解説をしているか。
- ③ どのような言葉で評価しているか。

筆者と自分のものの見方をとらえ、自分の考えを文にまとめるには

○ 自分の考えをまとめるために、次にあげることをしていきましょう。

- ・ 筆者のものの見方や感じ方と共通するところを探す。
- ・ 筆者のものの見方や感じ方とちがうところを探す。
- ・ ちがうところについて、自分はどのような見方をしていたのかを考える。
- ・ 新しく知ったことや見方が広がったと思うことをまとめる。

○ 「鳥獣戯画」に対する自分の考えを次のように文にまとめていきましょう。

- ・ どの動物を取り上げるのかを決める。
- ・ 取り上げた動物の何に着目するかを決める。
- ・ 自分ならどんな見方をするのかを考える。

友達と考えを聞き合ってみると、同じような見方やちがう見方で自分にはないものがみつかると、どんどん友達と交流しよう。



書き出しや文末の工夫、短く歯切れのよい文等、筆者の文章表現の工夫について考えてみて、自分が文章を書くときの参考にするとよいですよ。



単元	年組番	問
六年 筆者のものの見方をとらえ 自分の考えをまとめよう 「鳥獣戯画を読む」	氏名	

教科書一三六ページから一三九ページまでを読んでから、次の問題に答えましょう

1 一三七ページの絵を見た筆者が、その絵の取り上げている部分を表しているところには、次の二つの傍線部があります。それぞれ何に着目しているのか、次の①～⑤の中から適切なものを選びましょう。

- (1) 「蛙が外掛^{かえり}け、すかさず兔^{うさぎ}は足^{あし}をからめて返し^{わび}技^{わざ}」
- (2) 「蛙が兔の耳^{みみ}をがぶりとかんだ。この反則^{はんそく}技^{わざ}にたまらず兔は顔^{かほ}をそむけ、」
- ① 形 ② 大きさ ③ 色 ④ 格好 ⑤ 表情 ⑥ 気持ち

答え (1)

(2)

2 (1)、(2)について、筆者が評価している表現を一三六ページの五行目から一三七ページの七行目までのの中から見つけて、書きぬきましょう。

--	--	--

3 一三八ページ「兔を投げ飛ばした蛙の口から線が出ているのに気がついたかな。いったいこれは何だろう。」で、この正体はなんだと作者は考えていますか。

単元	六年 筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書く 「自然に学ぶ暮らし」	氏名	年組番	4 問
氏名				

文章には様々な構成があります。事実と感想、意見などとの関係をおさえながら、構成を理解して筆者の考えをとらえましょう。

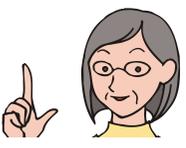
筆者の意図に即した事例をとらえる

1 構成を整理して小見出し例にそって、小見出しをつけましょう。

段落	段落の関係	小見出し
① ②	問題提起 筆者の提案	(小見出しの例) 自然の仕組みを利用した新しい暮らし方への提案
③	④～⑧の予告	
④	事例①	
⑤		
⑥		
⑦	事例②	
⑧	事例③	
⑨	まとめ 筆者の考え	

筆者の考えをとらえる

2 筆者の考える「新しい暮らし方」とは、どのような暮らし方であると言っていますか。教科書一八五ページの六行目から一四行目(第⑨段落)を読んで、「自然のしくみ」「資源」の言葉を入れて、筆者の考えを百字程度にまとめましょう。



筆者が考えを示すために、何について(事実)、どのように書かれているのかを、事例ごとにまとめると、筆者の考え・要旨をとらえやすいでしょう。

チャレンジシート② きほん

学習日 年 月 日

単 元	年 組 番	10 問
六年 筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書こう 「自然に学ぶ暮らし」	氏 名	

1 教科書一八五ページを読み、筆者の考える「新しい暮らし方」について事例ごとに利用する仕組みを に書きましよう。また、私たちの生活に応用できる「とき」と、文中の言葉を用いて書きましよう。

段落	自然の中の例 サバンナ地帯にある シロアリの巣	利用する仕組み トンネルによって	生活に応用できること
④ ⑤ ⑥		① 小さな穴によって	③
⑦	アワフキムシの幼虫 のあわ 魚のベタのあわ	② 空気層によって	⑥
		④ はじけるときの力で	
		⑤ というあわの性質	
⑧	トンボの羽の表面	⑦ トンボの羽の仕組みを生かした	⑧

2 筆者の考える「新しい暮らし」をあなたはどよう思いますか。自分の立場を明確にして、「理由」を入れて書きましよう。

① 自然との関わり方

○ 筆者の考えに () です。理由は ()

② 水や電気の使い方

○ 筆者の考えに () です。理由は ()

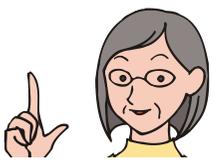
単元	年組番	氏名	問
六年「漢字の形と音・意味」 <small>おん</small>			

同じ部分で同じ音

- ・ 一丁目ちやうめいの公園で友達と遊ぶ。
- ・ 父は県庁けんちやうで働いている。
- ・ 町内会ちやうないかいのお祭りに参加する。

「丁」・「庁」・「町」は、どれも「丁」という部分を持ち、「チヨウ」という音の漢字です。このように、同じ部分をもつ漢字には、音も共通するものがあります。

漢字辞典の音訓さくいんを使うと、同じ部分を持ち、音も共通する漢字が調べやすいですよ。この機会に、漢字辞典を使って、調べてみるのもよいですね！



同じ部分と意味

同じ部分をもつ漢字は、意味のうえでつながりがあります。

(例)

- ・ 母が買い物に行く間、家で留守番をする。
- ・ 今日は、京都の有名な宿屋しゆくやに泊る予定だ。
- ・ クラスの友達と協力して、教室きやうしつの片付けをする。

「家」・「守」・「宿」・「室」はどれも「宀」(うかんむり)をもつ漢字です。「宀」(うかんむり)は、屋根におおわれた家の形をえがき、「家」や「屋根」などに関係する意味を表します。

六年「漢字の形と音・意味」	単元
氏名	年組番
10問	

1 次の文章の□の中に当てはまる漢字を□の中から選び、書きましよう。

(1) ・東大 □ に大仏の見学に行く。

・待ち合わせの □ 間を確認する。

・ □ 久走大会で一位をとるために、練習をする。

時 持 寺

(2) ・ □ 紙を集めて再利用する。

・知り合いの画家が □ 展を開いている。

・ □ 体から液体に変わる様子を観察した。

個 古 固

2 次の漢字の同じ部分を□の中に書き、その部分が表す意味を□の中から選び、記号を書きましよう。

(1) 往・復・徒 □ 同じ部分 □ 表す意味

(2) 打・投・技 □ 同じ部分 □ 表す意味

- ア 「道を進む」や「歩く」
 イ 「家」や「屋根」
 ウ 「手」や「手の動き」
 エ 「切る」や「かたなの働き」
 オ 「肉」や「体」

単元		年組番		14問
六年「漢字の形と音・意味」		氏名		

1 同じ部分をもち、同じ音をもつ漢字を三字集め、集めた漢字を使って例のように短い文章を作りましょう。(※【】内の漢字も使ってよいです。)

例【丁】(チヨウ)	丁	庁	町
週末には、町内会のお祭りが予定されている。			

(1)【長】(チヨウ)			

(2)【責】(セキ)			

2 次の「」の部分をもつ漢字を二字集め、その部分が表す意味を書きましょう。

意味	(1)「リ」(りっとう)	漢字	

意味	(2)「ト」(りっしんべん)	漢字	

単元	年組番	氏名	問
六年「熟語の成り立ち」			

漢字二字の熟語

- ①似た意味の漢字の組み合わせ・・・・・・・・・・・・・例（価値）「かち」
- ②意味が対になる漢字の組み合わせ・・・・・・・・・・・・・例（縦横）「じゅうおう」
- ③上の漢字が下の漢字を修飾^{しよく}する関係にある組み合わせ・・・・・・・・・・・・・例（最善）「さいぜん」
- ④「○○を」「○○に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ・・・・・・・・・・・・・例（洗顔）「せんがん」

漢字三字の熟語

- 1 二字の語の頭に一字を加えた熟語
 - ①上の語が下の語の性質・状態などを限定するもの・・・・・・・・・・・・・例（高性能）「こうせいのおう」
 - ②「不」「未」「無」「非」などの上の語が、下の語を打ち消すもの・・・・・・・・・・・・・例（不安定）「ふあんてい」

2 二字の語の後ろに一字を加えた熟語

- ①上の語が下の漢字を修飾して、物事の名前になるもの・・・・・・・・・・・・・例（銀河系）「ぎんがけい」
- ②上の語に下の語が意味をそろえて、様子や状態を表すもの
 - ア 「○○のような」「○○のような性質をもつ」という意味をそえる・・・・・・・・・・・・・例（典型的）「てんけいてき」
 - イ 「○○のようになる」という意味をそえる・・・・・・・・・・・・・例（合理化）「ごうりか」

3 一字の語の集まりから成る熟語・・・・・・・・・・・・・例（市町村）「しちやうそん」

漢字四字以上の熟語

- ①一字の語の集まりから成る熟語・・・・・・・・・・・・・例（春夏秋冬）「しゅんかしゅうとう」
- ②いくつかの語の集まりから成る熟語・・・・・・・・・・・・・例（臨時列車）「りんじれつしゃ」

このほかにも熟語同士を組み合わせることができる
 字数の多い熟語もあります。
 興味のある人は、国語辞典や新聞・本などで見付けて、集めてみると面白いですよ。



単元		年組番		11問
六年「熟語の成り立ち」		氏名		

1 次の①～④に当てはまる二字の漢字からできている熟語を□から見付けて、書きましよう。

忠誠 海底 帰国 左右	①意味が対になる漢字の組み合わせ	②似た意味の漢字の組み合わせ	③上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ	④「○○を」「○○に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ

2 次の①～②に当てはまる三字の漢字からできている熟語を□から見付けて、書きましよう。

不安定 無制限 新記録 非常識	①上の語が下の語の性質・状態などを限定するもの	②「不」「未」「無」「非」などの上の語が、下の語を打ち消すもの

3 次の①～②に当てはまる三字の漢字からできている熟語を□から見付けて、書きましよう。

積極的 銀河系 近代化	①上の語が下の漢字を修飾して、物事の名前になるもの	②上の語に下の語が意味をそえて、様子や状態を表すもの
		ア「○○のような」「○○のような性質をもつ」という意味をそえる
		イ「○○のようになる」という意味をそえる

単元	氏名	問
六年「熟語の成り立ち」	年組番	

1 一字の語の集まりから成る三字の漢字からできている熟語をできるだけたくさん見付けましょう。

2 次の①～②に当てはまる四字以上の漢字からできている熟語をできるだけたくさん見付けましょう。

① 一字の語の集まりから成る熟語	
② いくつかの語の集まりから成る熟語	